

えがお 愛顔つなぐえひめ国体

松山らしいおもてなしと 笑顔があふれる大会を願って



「おきゃん」の形に並べられたキャンドル

愛顔つなぐえひめ国体が開幕。8月27日には開催直前イベントが城山公園で行われ、会場に訪れた約2,500人が松山らしいおもてなしと笑顔があふれる大会を願いました。



炬火受け皿に点火する野志市長



参加者でおこした火を会場内でリレー



昔ながらの道具を使って火おこし

主な内容

- 子規・漱石・極堂生誕150年 記念式典開催 ……3面
- 私たちのふるさと松山学 ……6面
- 松山圏域だより秋号 ……7面
- 愛媛FCマッチシティ 「松山市の日」 ……12面
- 市民ガイド ……9～11面

発行：松山市役所
編集：総合政策部シティプロモーション推進課
毎月1日・15日発行
☎948-6705 FAX934-2578
http://www.city.matsuyama.ehime.jp/

国体総務課 ☎9097844・FAX9097850



墨絵ライブパフォーマンスを行った茂本ヒデキチさんが名称をお披露目

「まつやまの火」の名称は、渡部巧一朗さん（栗井小4年）が名付けた「おもてなし 笑顔あふれる 松山の火」に決定。まつやまの火は、えひめ国体総合開会で県内他市町の火と合わせ、県総合運動公園陸上競技場（上野町）にともされ、選手たちの活躍を見守るシンボルになります。

開催直前イベントでは、「まつやまの火をみんなの手で」をスローガンに、「炬火」（オリンピックでは聖火にあたる貴重な火）を参加者でおこしました。

火おこしには、子どもから大人まで約1,200人が参加。おこした火は、キャンドルにともして「みきゃん」の形に並べられ、会場を明るく照らしました。最後に参加者全員でおこした火をトーチにともし、会場内をリレーしてつなぎ、野志市長が炬火受け皿に点火して、「まつやまの火」が誕生しました。

炬火受け皿にともされた「まつやまの火」の名称は、渡部巧一朗さん（栗井小4年）が名付けた「おもてなし 笑顔あふれる 松山の火」に決定。まつやまの火は、えひめ国体総合開会で県内他市町の火と合わせ、県総合運動公園陸上競技場（上野町）にともされ、選手たちの活躍を見守るシンボルになります。

「まつやまの火」名称決定

おもてなし
笑顔広がる
松山の火